

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0331
施設名	昭和郷保育園
施設所在地	昭島市 中神町1260番地
法人名	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

・当園の特徴は園庭に自然がたくさんあり、日ごろから園庭を探索し植物や虫に興味を持っていた。観察をしたり図鑑や絵本で調べる姿も見られより、興味や関心が広がるよう自然をテーマとした。

2. 活動スケジュール

苔を発見→観察→ペットボトルキャップで苔テラリウム作り→陶芸指導で苔用のポット作り→苔をポットに植える→展示→持ち帰り

3. 探究活動の実践

《苔を発見》

年長児でのお泊り保育で檜原村のおもちゃ美術館に遊びに行った。裏山散策を行い、そこで動物の足跡や糞を発見したり、事前に調べていた山野草を発見したり、探索活動を大いに楽しんでいった。その際に、苔を発見し「きれいだね」「ほわほわしてるね」「そだてたいね」などと興味を持って観察する姿が見られた。するとガイドの方より苔をいただくことができ、大喜びの子どもたちであった。お泊り保育後、園で苔について調べると地球で一番昔からいる植物の一つであることが分かったり、太陽はあまり得意ではないことや水が好きなどなどが分かった。実際の育て方についても調べて苔テラリウムを作り、お世話をしていくことにした。

《苔のポット作り》

陶芸指導ではヒヤシンスの鉢を作る予定にしていたが、子どもたちから「こけのいれものもつくりたい!」と声があがった。陶芸指導の講師に相談し、苔が入れられる小さいサイズのポットも作ることにした。指導の当日は大事に丁寧に作る様子が見られ、苔を植えることを楽しみにしている様子があった。

《ポットの完成》

自分たちで育ててきた苔を、自分で作ったポットに植えた。大事そうに観察したり「かわいい」と優しく指で触ったり、「なまえをつけたい」と言って考える姿も見られ、さらに苔に対する愛着が増したようだった。



4. 振り返り

園外行事の山の探索活動で、足元に広がる苔の美しさに気づいた子どもたちが「きれい」「そだててみたい」と興味を持ったことから、この活動は始まりました。持ち帰った苔を大切に育てるため、図鑑などでその性質を熱心に調べる姿が見られ、まずは身近なペットボトルのキャップを使った「苔テラリウム」作りへと発展しました。霧吹きで世話をする中で色が鮮やかになったり、少しずつ形が変わったりする変化に気づき、小さな命への愛着を深めていきました。

活動が深まると、子どもたちから苔に合う入れ物を作ってあげたいというアイデアが生まれ、陶芸でのポット作りに挑戦。試行錯誤して完成させた自作の器に植え替えると、「かわいい」「名前をつけよう」と自分たちの手で作り上げた達成感と、苔へのいっそう深い愛情が溢れだしました。

山での小さな発見をきっかけに、自分たちで調べ、工夫してお世話をし、最後は自分の手で形にするという一連のプロセスを通じ、自然に対する知的な好奇心と、いつくしむ心が豊かに育まれた実践となりました。